

就任の ご挨拶



社会福祉法人
鹿児島県社会福祉協議会

会長 溝口 宏二

「だれもが安心して暮らせる 福祉社会づくりをめざして」

6月1日から県社会福祉協議会会長に就任いたしました溝口宏二でございます。

私はこれまで鹿児島県議会を始め多くの場で活動してまいりましたが、このたびご縁がありまして社会福祉の業務の一環に参画出来ましてを嬉しく存じますと同時に、改めて心の引き締まる思いであります。

ご承知のとおり、私どもを取り巻く生活環境は、大変難しい局面の中にあります。急速な少子高齢化、「限界集落」の顕在化、百年に一度ともいわれる経済危機による生活への不安、行政はもとより企業等における財政事情の悪化等枚挙にいとまがありません。

そのような中、近隣地域における福祉への需要がますます増大かつ多様化しており、地域福祉活動への新たな期待が寄せられているところであります。

県社会福祉協議会といたしましては、

公的な制度はもとより、制度の谷間にある諸課題に対応するため、県や市町村、市町村社会福祉協議会、社会福祉関係機関団体をはじめ、NPOなど地域福祉を担うさまざまな事業主体とも連携を密にして、だれもが住み慣れた地域の中で、すこやかで安心して暮らすことの出来る福祉社会づくりをめざしてまいり所存でございます。

私も、これまで多くの皆様方によって築かれました本県の福祉が、今後さらに充実していきますよう、全力を傾注してまいりたいと考えておりますので、これからも一層のご支援ご鞭撻を下さるようお願い申し上げます。

最後になりましたが、皆様方のご健勝とご多幸を祈念申し上げます。就任のご挨拶といたします。

平成
20年度

鹿児島県社会福祉協議会 事業報告・決算状況

市町村を基盤とした地域福祉の推進が図られる一方、人間関係の希薄化の進行、少子高齢社会の影響、都市と地方の格差の拡大、65歳以上の高齢者が50%以上を占め集落機能の低下を招く恐れもある「限界集落」の顕在化、労働力人口の減少に伴う介護福祉分野での人材確保の難しさ、国・地方を通じた行財政改革の更なる進展、昨春秋以降の世界同時金融危機・経済危機の影響を受けた深刻な雇用不安など、喫緊に対応しなければならぬ課題が山積している。

このような中、地域における福祉ニーズは量的にも質的にも多様化してきており、制度の谷間にある課題への対応も含めて、公的制度・施策に基づくサービスだけではカバーしきれない分野の問題が顕在化してきている。

こうした基本認識のもと、地域福祉の中核的推進組織である県社協は、本県の地域福祉を推進し多様な福祉ニーズに的確に応えるため、平成20年度の基本目標を次のとおり定め、また県の新たな受託事業等も積極的に取り入れながら全力を傾注してきたところである。

具体的な事業の中では、地域福祉活動分野の重要性が高まっていることに鑑み、公的支援の対象とならない分野での地域福祉活動を支援する「ねんりん基金」の創設、県からの受託事業である「県民生活力育成支援事業」に取り組んだほか、新たな県の補助事業の「介護福祉士等修学資金貸付事業」に着手するとともに、障害者の自立・就労への支援や高齢者の生きがい・健康づくり等に資する様々な事業に新たな視点を盛り込みながら積極的に取り組んだ。

また、平成20年10月に本県で開催された第21回全国健康福祉祭がしま大会（ねんりんピック鹿児島2008）においては音楽文化祭を主管するなど、同大会の成功に貢献することができた。

事業実施状況

1. 会務の運営並びに連絡調整

- ・ 役員会の開催
- ・ 関係機関・団体との連絡調整
- ・ 国際交流事業の実施
- ・ 自主財源の確保